

大分県観光予報観光動向レポート 7月号

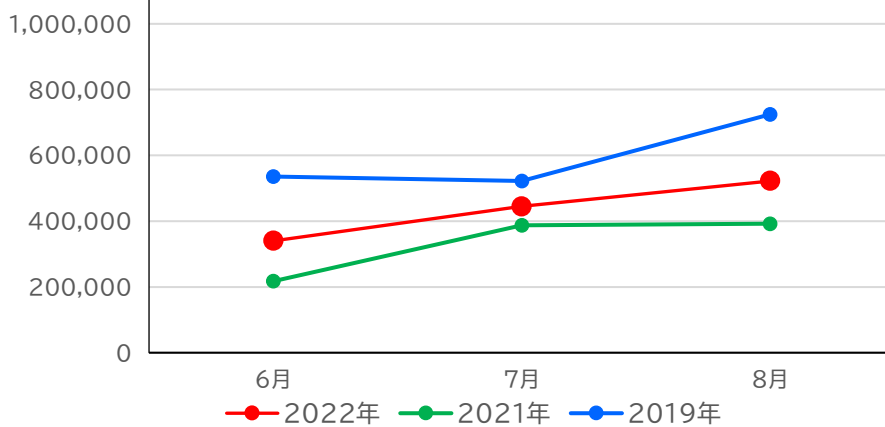
対象都市	大分県	集計対象期間	2022年6月～2022年8月（3か月間）
比較対象都市	福岡県・長崎県・熊本県	比較対象年度	2021年（前年）、2019年（コロナ前）

大分県の宿泊動向

■宿泊者数の推移

〔2022年6月～8月の宿泊者数（大分県 実績・予測）〕

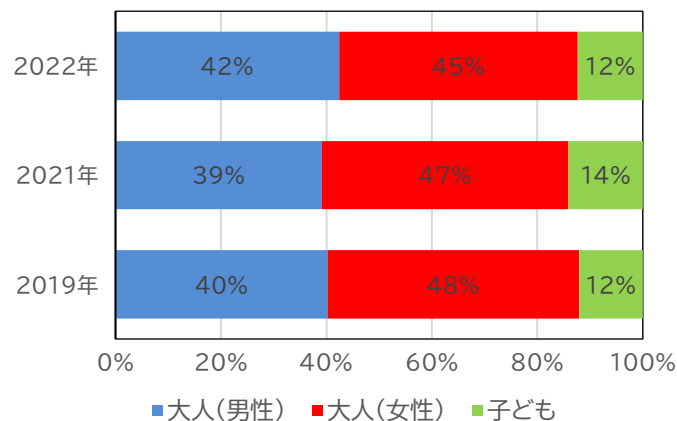
（人）



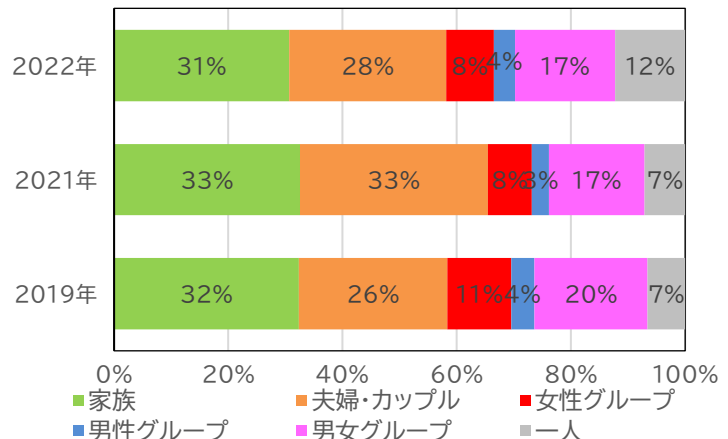
7月宿泊実績：444,819人
（6月時点7月予測：364,027人）
8月宿泊予測：521,933人
（6月時点8月予測：236,937人）
前年比（7月）
15% 増
2019年比（7月）※コロナ前
-15% 減

■宿泊者属性の動向

〔大人・小人の別（7月）〕



〔同伴形態の別（7月）〕

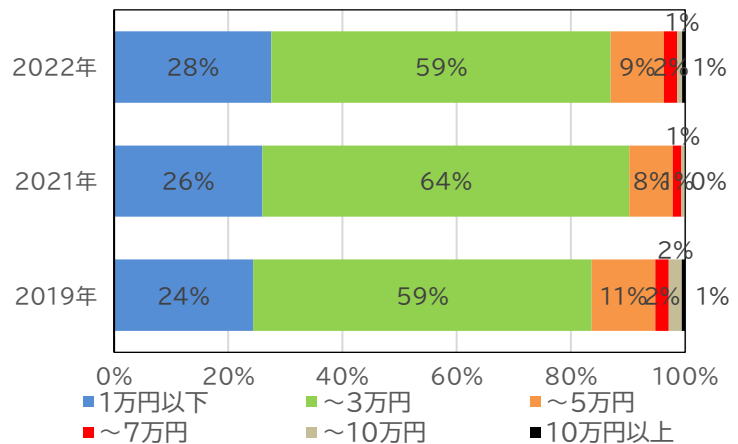


〔当期宿泊者の居住地ランキング（7月）〕

※海外はデータ数小により非表示

国内	1位	福岡県	120,259	27%	6位	神奈川県	17,819	4%
	2位	大分県	69,918	16%	7位	熊本県	16,719	4%
	3位	東京都	23,809	5%	8位	宮崎県	14,626	3%
	4位	大阪府	21,152	5%	9位	兵庫県	13,697	3%
	5位	山口県	17,866	4%	10位	埼玉県	12,669	3%

〔一人あたり宿泊購入額（7月）〕



〔市町村別の宿泊者数ランキング（7月）〕

市町村名	宿泊者数	市町村名	宿泊者数
1 別府市	212,686	10 佐伯市	957
2 由布市	113,889	11 国東市	789
3 大分市	55,440	12 宇佐市	357
4 日出町	20,960	13 豊後高田市	330
5 日田市	11,696	14 豊後大野市	311
6 杵築市	9,548	15 津久見市	224
7 中津市	7,133	16 臼杵市	65
8 竹田市	7,101	17 姫島村	—
9 九重町	3,333	18 玖珠町	—

考察

【大分県の宿泊動向】

- ・2022年7月の宿泊者数は、3年ぶりに行動制限のない夏休みシーズンに入ったことや、隣県を含む旅割が継続していたことなどから前年比15%増と増加傾向ではあるものの、感染者数の急増などによりコロナ前の2019年比は-15%減にとどまった。
- ・宿泊者の属性に関しては、女性や男女グループの割合はコロナ禍以降は減少が見られ、2022年は一人旅の割合が増えている。
- ・大分県宿泊者の居住地は、福岡県在住者が27%を占め、引き続き福岡県・大分県在住者が多くの割合を占めている。

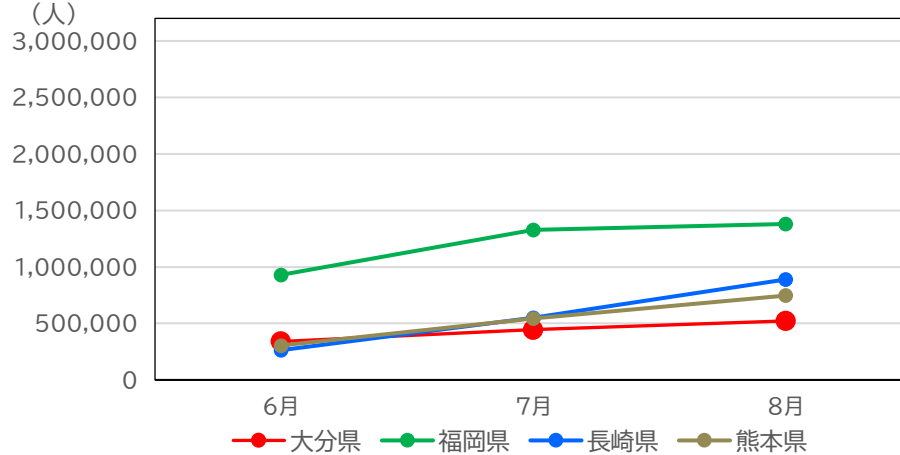
レポート発行日：2022/8/17(データ更新日：2022/8/10)

※2022年6月以降の数値は現在の予約状況及び過去の動向を踏まえた推計値です。予約数の増減に応じて随時値は変化します。
また、2022年の実績値についてはキャンセル値を随時反映しているため、数値が変化する可能性があります。

比較対象都市との比較（6月～8月の宿泊動向）

■宿泊者数の推移の比較

〔2022年6月～8月の宿泊動向（隣県比較）〕



【各県前年比（7月）】

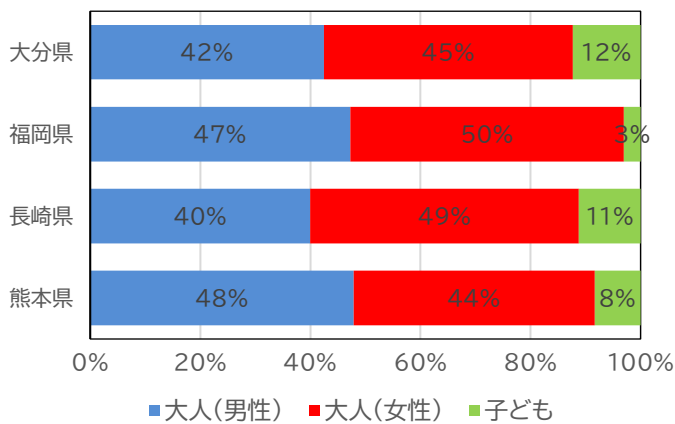
大分県： 15% 増
福岡県： 47% 増
長崎県： 33% 増
熊本県： 23% 増

【各県2019年比（7月）】

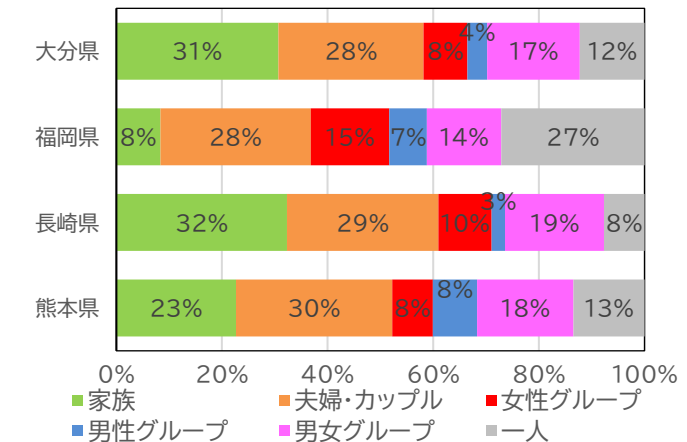
大分県： -15% 減
福岡県： - 3% 減
長崎県： 1% 増
熊本県： -13% 減

■宿泊者属性の動向比較

〔大人・小人の別（7月計）〕



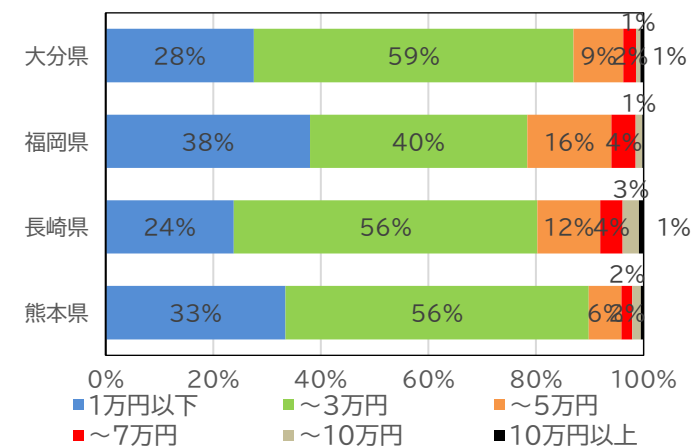
〔同伴形態の別（7月計）〕



〔各県宿泊者の居住地ランキング（7月計）〕

大分県				福岡県			
1 位	福岡県	120,259	27%	東京都	151,320	11%	
2 位	大分県	69,918	16%	福岡県	130,143	10%	
3 位	東京都	23,809	5%	大阪府	115,916	9%	
4 位	大阪府	21,152	5%	神奈川県	96,761	7%	
5 位	山口県	17,866	4%	鹿児島県	75,239	6%	
長崎県				熊本県			
1 位	福岡県	94,708	17%	福岡県	111,944	21%	
2 位	東京都	62,617	11%	熊本県	88,008	16%	
3 位	神奈川県	43,728	8%	東京都	39,108	7%	
4 位	大阪府	43,329	8%	鹿児島県	36,770	7%	
5 位	長崎県	38,303	7%	神奈川県	36,702	7%	

〔一人あたり宿泊購入額（7月）〕



考察

【比較対象都市の動向】

・比較対象都市の宿泊者数の動向としては、福岡県と長崎県は7月は前年比でそれぞれ47%、33%増、コロナ禍前の2019年比も他2県と比べ比較的減少率が低くなっており、長崎県は1%増加となっている。夏休みシーズンの7月は前月比も大きく伸びた他県に比べ、大分県は前月比31%増、前年比15%増、2019年比-15%減と比較的低水準となった。（前月比：福岡43%増、長崎109%増、熊本79%増）

・宿泊者の属性をみると、福岡県は一人での宿泊や1万円以下の予約が多くビジネス客等の需要が多いと考えられる。
・大分県・長崎県は、子どもや家族の割合が他県に比べ高くなっており、子連れの家族層に多く選ばれている傾向が伺える。

・各県宿泊者の居住地をみると、大分県は福岡県、及び自県からの宿泊者の割合が比較的多いが、関東・関西圏からの宿泊者は他県に比べ少ない。